

上中里・氷取沢地区 小規模校再編検討委員会ニュース

平成18年 1月 6日 第 7 回検討委員会開催

今回は、主に統合校の学校名や特色づくりについて議論するとともに、事務局から意見書の素案を提示しました。

また、検討委員会に寄せられた耐震に関するご意見に対して、まちづくり調整局の技術担当職員から耐震補強設計について説明を行いました。

次回は、統合校の校名案を決定し、意見書について話し合います。



平成18年 1月 6日 上中里小において

統合校の学校名案

「磯子みなみ」「上笹下」「さわの里」「茅野台^{かやのだい}」「たけのこ」の5案に絞る

統合校の学校名については、12月に上中里小・氷取沢小の通学区域内の全世帯を対象に行ったアンケートと委員の方からのご提案・ご意見をもとに話し合いました。

学校名案の選定に当たっては、「上中里」・「氷取沢」の両校の名称を使用しているもの、学校名として長すぎるもの、既に市内に存在する学校名等と類似するもの、上中里・氷取沢以外の地区の地名等や他地区と誤解されやすいもの、言いづらい、発音しづらいもの、人名に多いものを除外するなど基準を定め、「磯子みなみ」「上笹下」「さわの里」「茅野台」「たけのこ」の5案に絞りました。

次回の検討委員会で、基本的にこの候補名から統合校の学校名案を選定していくこととしました。

学校名候補 5 案

学校名案	理 由
磯子みなみ (いそご南)	両校は磯子区の南部に位置すること。新しい学校として、南十字星のように光り輝いてほしいとの願いを込めて
上笹下	旧地名から。上笹下地区(連合を含む)の小学校
さわの里	大岡川の源流である水と緑深き里山。すばらしい自然に囲まれたところ。氷取沢の「沢」と上中里の「里」
茅野台 (かやのだい)	上中里小があるところは昔、茅がいっぱい生えていて、茅を刈る場所だったことから
たけのこ	「たけのこ」のように子どもたちにすくすくと伸びていってほしいという願いを込めて。氷取沢小には、たけのこ御飯、竹藪、緑があったことも含めて

(注) は、検討委員会において委員から提案があった学校名案

アンケートによる学校名案(五十音順)

いそご上中里、磯子台、磯子みどり、磯子みなみ(いそご南)、いちょうヶ丘、円海山、大空(青空)、上笹下、久良岐、向陽、こだま(木霊)、こだまの丘、桜、桜坂、さわの里、新里沢、翼(つばさ)、中取、浜ノ森(杜)、平成総合、緑沢里、みどり野、緑の丘、名実、(磯子)杜(森)の里、森の都、横浜磯子こすもす台、横浜磯子桜台、横浜磯子汐風、横浜磯子瀬上、横浜磯子ふじづか、横浜磯子南台、よしみつ瀧桜、若葉

同一の方による複数応募も掲載しています。

～ ご応募ありがとうございました ～

統合校の学校名についての主なご意見

基本的にあまり長いものはよくないと思う。

ある程度どこの地域にある学校か校名から見当がついた方がいいような気がする。

地名から名前をつけるとどうしても野暮ったい感じになる。統合して新しい雰囲気ですスタートすることなら、新しい気持ちになれるような校名の方が無難かなと思う。

言いにくい、又は発音しにくい名前はやめた方がいいと思う。

小学校である以上はできるだけ身近な名前がいいと思う。

「円海山」は、よその地域の地名なので地元の住民としては候補からはずしてもらいたい。

「久良岐」は範囲が広い。久良岐公園付近のイメージが強い。

「翼(つばさ)」は、子どもの名前に多い。また、学校のイメージとしてピンとこない。

「青空」は、同じ名前の学童保育があり、洋光台のイメージ。「大空」も似ている。

[選定からはずれた主な理由とその例]

- ・他の地区のイメージ …… 磯子台、円海山、久良岐、浜ノ森、横浜磯子瀬上
- ・既存校・既存施設と類似 … 磯子みどり、大空(青空)、いちょうヶ丘、向陽、桜、桜坂、緑沢里、みどり野、緑の丘、杜の里、横浜磯子桜台、横浜磯子ふじづか、横浜磯子南台、若葉

新校の特色づくりは、今後両校で進める

新校は、再編統合を契機に上中里・氷取沢地区にふさわしい教育の特色づくりを進めることとしています。具体的には統合に向けた準備の中で、両校の教員が中心となって検討していくこととなります。

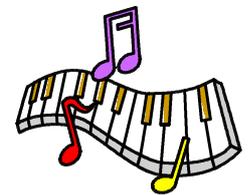
本検討委員会で出されたご意見

～ 前回の委員会まで ～

- ・ 上中里・氷取沢地区の新しい学校にふさわしい学校の特色づくりを進めてほしい。
- ・ 氷取沢地区の農業専用地区という地域特性を活かした取組をしてほしい。
- ・ 「どんど焼き」など伝統的な行事をできるだけ残してほしい。
- ・ 国語をきちんと教えてほしい。

～ 今回の委員会 ～

- ・ 読み書きなどの基礎学力、体力づくり、プラスバンドの継続
- ・ 氷取沢小の良い特色としての自校炊飯を新校でも継続してほしい。
- ・ どちらの学校もいろいろ特色があり、ここですべて示すことは難しい。次回までにPTAの中で話し合い持ち寄ってくるということでもいいのではないか。



他の地区の検討委員会で出されたご意見（意見書抜粋）

読み書きなどの基礎学力、体力向上、隣接の霧が丘中学校と連携した小中一貫教育、英語教育や情報教育の推進、マーチングクラブの継続、海外の人との交流、パソコン操作のマスター、プレゼンテーション能力の開発、子どもたちの体力強化

意見書 素案を事務局から説明 次回検討委員会でとりまとめへ

検討委員会としての検討が終盤を迎えたことから、再編統合の時期、統合校の設置場所、学校名案、小中学校の通学区域等、これまで検討委員会として決定した内容をまとめた意見書の素案について、事務局から説明しました。

次回の検討委員会では、今回出された意見等を踏まえ、委員長・副委員長と事務局で意見書の案を作成し、とりまとめていくこととなりました。

検討委員会に寄せられたご意見について

次の内容のご意見が検討委員会に寄せられました。ご意見の中で、「補強とはあくまで補強で補足でしかないので、新耐震基準で建てられた建物に及ばない。」という内容があり、耐震補強について誤解されている部分があると思われます。再編統合に当たり耐震補強の問題は重要な事項ですので、検討委員会でも耐震補強について正しく理解していただくために、まちづくり調整局から説明を行いました。

<ご意見の要旨>

(12月22日受信)

設置場所が上中里小に決まったことについて、通学距離・時間については理解できます。防犯、防災についても、ある程度理解できました。教室数・校庭の広さについては、少し疑問があり、氷取沢小も子どもの数が多かった時期に十分対応できていたので、氷取沢小の教室数でやっていけると思いました。

一番心配していることは、校舎の耐震性です。上中里小の校舎を補強することですが、補強とは、あくまでも補強で、補足でしかありません。耐震基準が厳しくなった後に建てられた建物に及ぶことはありません。上中里小の今の校舎では、子どもを通わせる親として安心できません。上中里小の敷地を使うのであれば、校舎はこの機会に建て直してからにしてください。

平成7年の阪神淡路大震災では、建物の倒壊など甚大な被害がありました。このときに被害を受けた建物、受けなかった建物を学者が調査して、設計図面をもとに構造計算を行い、耐震性を調べたところ、新耐震基準(昭和56年)で造られた建物は、大破・中破の被害がほとんどないことが分かりました。

このことから新耐震基準以前の建物について新耐震基準に合うように建物を補強しようというのが「耐震補強」で、この補強を行うことによって新耐震基準の建物と同等又はそれ以上の耐震性能を持つことが可能になります。これに伴い、平成7年に「建築物の耐震改修の促進に関する法律」が施行され、国の施策として建物全般の耐震化を促進することとなりました。特に公共施設については、震災時には避難や救助活動の拠点となっているため耐震化が急がれています。横浜市では、平成22年(2010年)までに公共施設の耐震補強を終える予定で耐震化を進めており、学校についても平成11年から年間30件程度のペースで耐震化を図っています。

なお、ご意見のように「補強は補強でしかない」ということについては、字だけをみるとそのとおりですが、この補強を行うことによって新耐震基準と同等又はそれ以上の耐震性能を持つことが可能になるのです。「校舎を建て替える」というご要望については、選択肢としては考えられますが、補強すれば耐震上問題がないのにあえて建て替える必要はないと考え、横浜市では建物の長寿命化の視点から長く使えるものは使うという方針で施策を進めています。

耐震補強の方法

耐震補強の方法は、基本的には、壁や柱を増やしたり、柱を大きくしたりします。また、斜材を埋め、柱と梁の接点を補強すると耐震性能が向上します。学校の耐震補強の進め方については、一定のルールに基づいて進めて行かなければならないので、国土交通省から基準(指針)が示されており、それに基づいて耐震診断と補強設計を行っています。

耐震診断

建物の耐震性能がどれくらいあるのかは、計算で「構造耐震指標(以下「指標」)」という形で求めます。一般的な建物は、この数値が基準の0.6を上回るかどうか調べます。0.6というのは、阪神淡路大震災の時に倒壊又は損傷を受けた建物について、多くのサンプルをとって調べた結果、大破又は中破した建物は、この指標が0.6以下のものが非常に多く、0.6を超えると少なくなり、0.7を超えるとほとんどありませんでした。このことから、国土交通省の基準では、基本的に指標が0.6を超えるように建物を補強することを求め、さらに文部科学省は、学校について通常の0.6より厳しい0.7を基準としています。

構造耐震指標とは...

建物の強度、粘り強さ、形状、経年劣化度等を総合的に考慮し、その建物の耐震性能を示した指標。国土交通省の基準では、0.6以上が求められている。

補強設計

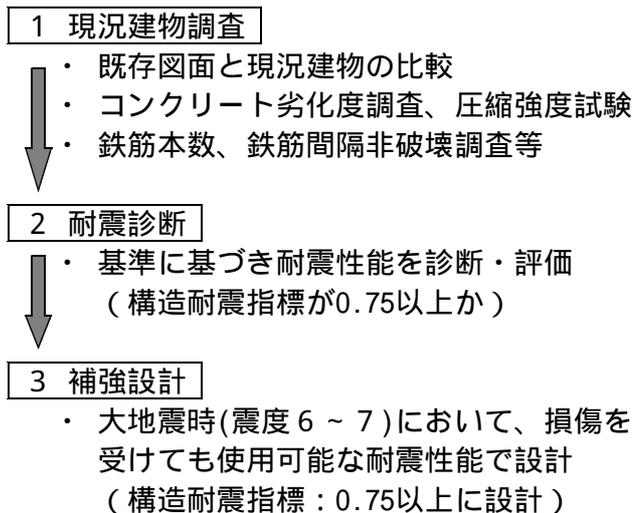
現況の建物を耐震診断した結果、補強の必要な建物は、当然、指標が0.6を下回っており、そのような建物に対して補強設計を行います。また、横浜市の学校は、国土交通省の基準(0.6)の1.25倍の0.75に耐震性能の基準を設定しており、これをクリアすれば新耐震基準と同等又はそれ以上の耐震性能を持つということになります。さらに学校の耐震診断、耐震補強設計については、公的機関による評定委員会(複数の大学教授などで構成)に諮問をして評定を受けて設計・工事を行っています。

構造耐震指標の基準値

	一般の建物	学 校	
所 管	国土交通省	文部科学省	横 浜 市
基準値	0 . 6	0 . 7	0 . 7 5

上中里小のB棟について、耐震診断の結果、補強が必要な場合は、平成18年度に耐震補強工事を行う予定です。

耐震補強の進め方(横浜市立学校の場合)



数値が大きいほど耐震性能が高い

検討委員会での話し合いから... ~ 氷取沢小下の空きビルについて ~

「氷取沢小の下(バス停前)に人が住んでいない空きビルがあり、子どもが連れ込まれる危険性や中学生・高校生も中に入っていたらしている様子があるなど防犯上問題である。氷取沢地区から通う子どもたちは、通学時には必ずこの建物の前を通ることになり、上中里の子どもたちも統合に伴い氷取沢地区まで交友関係が広がるので心配である。柵をつけるなど、この空きビルに入れぬよう改善策を講じられないか。」というご意見がありました。

基本的には、法的な強制力がないと私有財産に関与することは、行政としても難しい内容ですが調査・確認するとともに、学校からも子どもに対し、しっかり指導をしていくことを説明しました。

次回検討委員会の日程

平成18年2月6日(月)午後7時から氷取沢小学校で開催予定

ホームページのご案内

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会

<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/shoukibo/index.html>

基本方針等：<http://www.city.yokohama.jp/me/kyoiku/gakku/gakku.html>

小規模校再編検討委員会へのご意見は、EメールかFAXで事務局にお送りください。ご意見は、検討委員会のなかで報告・検討させていただいております。

上中里・氷取沢地区小規模校再編検討委員会事務局

横浜市教育委員会事務局学校計画課

Eメール：ky-isogo@city.yokohama.jp

FAX：045-651-1417 電話：045-671-3252